

独立歩兵第百四十三大隊部隊略歴

独立混成オ一十五旅団

独立歩兵オ一四三大隊長

山口 鐵男

年月日	概
昭和八年八月四日	<p>「スマトラ」島「ビルン」に於て独立歩兵オ一四三大隊編成完了 不後「スマトラ」島に警備に任ず 「サバン」島に敵機襲撃 同島に派遣しありたふオ四中隊は回戦中に 於て下士官二名兵四名戦死 兵一名戦傷死 員傷入院せりも下士官一名 兵八名 内退院し部隊に復帰せりも の下士官一名 兵三名 後送内西部隊に転属せりも 兵二名 其他 兵二名の其の後状況不明なり 「シボル」がレ島に於ける 敵敵潜水艦襲撃に於て 兵一名戦死 大隊請元として「スマトラ」に向け輸送途中「ファイリッピン」にマニ ラ沖に於て敵潜水艦の改商を告げ 兵一名戦死</p>

年月日	
概	<p>死 三六 経 下士官候補者として教育の爲内処に派遣教育終了部隊復帰途中 比島コレヒドル島西北海上に於て敵潜水艦の攻撃を受け下士 官一名戦死</p> <p>計 二一名</p> <p>平病死 一名 不慮死 一名</p> <p>戦病死 下士官 文名 一名 一名 一名</p> <p>大隊編成以来戦病死其の他の死歿者左の如し</p> <p>終戦後に於ける遺亡者中部隊に復帰せず其の後の状況不明なるもの 左の如し</p> <p>昭和二十年八月二十九日 逃亡 二名</p>

年 月 日	
概 要	<p>昭 五 五 七</p> <p>大隊補充員として將校四名 下士官九名 兵八七名 計一〇〇名到着す 昭和一八年徴集現役兵七八名到着（入隊）す 昭和一九年徴集現役兵（現地徴集）一六名、シボルガレ、於て入隊す。</p> <p>歴代部隊長名 陸軍大佐 折田 一雄 組 少佐 坂口 鐵 男</p> <p>昭和三一年三月二日 逃亡 兵一名 昭和三一年五月十九日 下士官一名 計 四名</p>

0130

独立歩兵第百四十四大隊略歴

独立歩兵第百四十四大隊

年月日	概 要
昭 五 一 一 八	<p>軍令陸甲オ一。ス号臨時編成(一甲)下令せらる</p> <p>「スマトラ」 「タパヌリ」州「ニマス」島「テログラム」に於て編成 完結す</p> <p>編成要員 解散後立守備歩兵オ五八大隊の主力</p> <p>編成定員 大隊長以下九三名</p> <p>編成充足数 七八四名</p> <p>大隊は編成完結と共に「ニマス」島防衛隊(独立歩一四五大隊)長の 指揮下に入り、主力を以て「ニマス」島南部地区防衛隊となり、オ一 中隊は「バツ」諸島に廻り同諸島防衛隊となり、オ三中隊は「スマト ラ」本島「シホル」に在りて独立混成オ二五旅団長の直轄に入る。</p>

年月日	概
昭 五 三	<p>独歩一四五大隊の軌道に伴い「ニアヌ」全島防衛の任務を継承す 下旬以降大隊主力は「スマトラ」本島「バガンダムパン」地区に移駐 し同地区警備に任せしめらる</p>
昭 五 三	<p>以降、中部「スマトラ」北地区防衛の任務を独歩一四五大隊より継承 し大隊本部を「シボル」に前送せしめ、防衛地区内各隊を併せ、指 揮に防衛警備に任じ、終戦時に至り</p>
昭 五 三	<p>終戦後も引続き既備を要更改することなく、地区内の治安維持に任ずる 傍ら、連合軍指示に基づき兵器弾薬処理を実施せり</p>
昭 五 三	<p>下旬、「リオ」州「パカルバル」に集結を命ぜられ、同地に直駐して 「リオ」防衛隊となり、引続き州内治安維持に任せり</p>
昭 五 三	<p>中部「スマトラ」撤退最終部隊として「パカルバル」出港 「マライ」州「バトバハ」に上陸 大隊一部、岡田中尉以下一三三を後発隊として同地に残留せしめ</p>

28
内
スマトラ

0132

	年 月 日
<p>三 五 六 七</p> <p>大隊主力（大隊長以下五四一名）は、コシンがポールヒヒを出発 守島港に上陸 復員完結せり</p>	概 要

- 111 -

0133

独立歩兵第百四十五大隊部隊略歴

年月日	概要
昭 七 九 五	<p>軍令三申才七一另に依り、南方軍ママトラシ島偵立守備隊編成下令同日鑑取つ着</p> <p>編成擔任官 才一五野戦勤務隊長 陸軍大佐 碓 善 天</p> <p>編成要員差出部隊</p> <p>才一五野戦勤務隊本部</p> <p>陸上勤務才七七中隊</p> <p>才八中隊</p> <p>才四十三安站地区隊</p> <p>才四十七</p> <p>才七十八</p> <p>才七十八安站警備隊</p> <p>近任歩才三連隊</p> <p>才四</p>

0134

年月日	昭
敵	<p>昭一七〇三二</p> <p>「スマトラ」島「フォルトゴック」に在る。独立守備歩隊五十九大隊編成完結</p> <p>独立守備歩隊五十九大隊長、陸軍大佐 碓 善夫</p> <p>西海岸州「バガン」移駐</p> <p>独立守備歩隊五十九大隊長 陸軍大佐 村 山 一 馬</p> <p>軍令陸軍省大寫並陸軍秘書官四百五十号に依り、独立親成隊二十五旅団編成並独立守備隊復帰下令に依り、同日より同部隊主力を以て独立歩隊四百十五大隊編成に着手</p> <p>「ニヤス」島移駐</p>
要	

年月日	概要
一七 一八	独立歩兵才百四十五大隊編成完結
五 九	独立歩兵才百四十五大隊長 陸軍大佐 村山一馬 独立歩兵才百四十五大隊長 " 少佐 本庄政治
三 一	西海州「パドン」移駐
三 二	「ソロ」地区に移駐
三 三	「ガキチンヤ」に移駐
三 五	内地帰還の目的を以て逐次「ガキチンヤ」出発
五 一	「パカンバル」港經由
五 五	馬來半島「バトバハ」に上陸完了
五 八	尔後、真田区に於て、南馬來軍指揮下に入り、連合軍作業に従事 部隊はオミ中隊の主力を残置し、オ九十四内運輸団に編入を命ぜり
六 一	「クルアン」校同所全員通過
六 二	「シンガポール」港乗船 同港出港

0136

独立混成隊第二十五旅団砲兵隊部隊略歴

年月日	概 要
昭 五 九 一	<p>「シニガホー」に於て編成完結</p> <p>「スマトラ」島に転進。尔後同島の防戦</p> <p>「ヌパマリ」州「シボル」が「湾」に於て英軍潜水艦と交戦。得救一戦死。下士官一員傷入院せり。も其の後「シニガホー」陸軍病院に転送。後不明なり</p> <p>西海岸州「バガン」に移駐。同地区防戦中終戦となす。</p> <p>歴代部隊長名</p> <p>陸軍中佐 松尾茂男</p> <p>少佐 高野利治</p>

独立混成隊第二十五旅団工兵隊部隊略歴

年月日	概	要
昭 六 二 七	指揮班 勅 員 オ三小隊 託載事項忒旨	オ二小隊 同
八 二 一 天	指揮班 オ二〇 粟塞工兵隊編成 オ二小隊 同	オ一 小隊 同
八 二 〇 毛	指揮班 門司港出帆 オ二小隊 同	オ三 小隊 同
八 二 〇 〇	昭南港上陸 オ二小隊 同	オ一 小隊 同
八 二 〇 三	指揮班 昭南出発 オ二小隊 同	オ一 小隊 同
八 二 〇 四	指揮班 馬木半島セラングール洲 ポートセラテンハム出帆 オ二小隊 同	オ一 小隊 同

年月日	概	要
昭和八年二月二日	指揮班 スマトラ島東海岸州デーンニ グン上陸	オニ小隊 同
八三一	指揮班 タバタリ州シボルカ到着	オニ小隊 同
八三二	指揮班 シボルカ附近の陣地構築	オニ小隊 同
八三三	指揮班 高参甲カ四七ニ号に依り復員完結同日概立現成	オニ小隊 同
八三四	指揮班 旅団工兵隊偏成 同日シボルカ港出帆	オニ小隊 同
八三五	指揮班 ニアス荷ガヤンストリ港上陸	オニ小隊 同
八三六	指揮班 同	オニ小隊 同
八三七	指揮班 同	オニ小隊 同
八三八	指揮班 同	オニ小隊 同

0140

至自	至自		至自	至自	昭	年 月 日	概 要
五 二 五	五 二 五		五 四 一	五 四 一	五 一 一		
カ一 小隊 同	指揮班 シボルが 附近の障 地構築	カ一 小隊 指揮班に 同じ	シボルが 港上陸 カ一 小隊	指揮班 シボルが 港上陸 カ一 小隊 指揮班に 同じ	カ一 小隊 シナウル 工島の障 地構築 カ一 小隊 指揮班に 同じ		

至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	年月日	概要
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	八四一五	オニ小隊 シボルカ附近の陣地構築
九	九	八	八	八	八	八	八	八	八	八四一五	指揮班 シボルカ出發 オニ小隊 同
三	二	一五	一三	一三	一三	一四	一五	一五	一五	八四一五	オニ小隊 大東亜戦争停戦
										八四一五	指揮班 西海岸州パガン到着 オニ小隊 同
										八四一五	オニ小隊 シボルカ地区の右近維持
										八四一五	指揮班 パガン附近の陣地構築
										八四一五	第一小隊 同
										八四一五	オニ小隊 シボルカが港出帆
										八四一五	指揮班 大東亜戦争停戦
										八四一五	オニ小隊 同
										八四一五	パガン到着 オニ小隊
										八四一五	指揮班 パガン出港
										八四一五	オニ小隊 同
										八四一五	オニ小隊 同

0142

		至自		至自		至自		年月日
		二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	
一	五	一	一	一	一	一	一	三
二	一	一	一	一	一	一	一	三
三	一	一	一	一	一	一	一	三
四	一	一	一	一	一	一	一	三
五	一	一	一	一	一	一	一	三
六	一	一	一	一	一	一	一	三
七	一	一	一	一	一	一	一	三
八	一	一	一	一	一	一	一	三
九	一	一	一	一	一	一	一	三
一〇	一	一	一	一	一	一	一	三
一一	一	一	一	一	一	一	一	三
一二	一	一	一	一	一	一	一	三
一三	一	一	一	一	一	一	一	三
一四	一	一	一	一	一	一	一	三
一五	一	一	一	一	一	一	一	三
一六	一	一	一	一	一	一	一	三
一七	一	一	一	一	一	一	一	三
一八	一	一	一	一	一	一	一	三
一九	一	一	一	一	一	一	一	三
二〇	一	一	一	一	一	一	一	三
二一	一	一	一	一	一	一	一	三
二二	一	一	一	一	一	一	一	三
二三	一	一	一	一	一	一	一	三
二四	一	一	一	一	一	一	一	三
二五	一	一	一	一	一	一	一	三
二六	一	一	一	一	一	一	一	三
二七	一	一	一	一	一	一	一	三
二八	一	一	一	一	一	一	一	三
二九	一	一	一	一	一	一	一	三
三〇	一	一	一	一	一	一	一	三
三一	一	一	一	一	一	一	一	三
三二	一	一	一	一	一	一	一	三
三三	一	一	一	一	一	一	一	三
三四	一	一	一	一	一	一	一	三
三五	一	一	一	一	一	一	一	三
三六	一	一	一	一	一	一	一	三
三七	一	一	一	一	一	一	一	三
三八	一	一	一	一	一	一	一	三
三九	一	一	一	一	一	一	一	三
四〇	一	一	一	一	一	一	一	三
四一	一	一	一	一	一	一	一	三
四二	一	一	一	一	一	一	一	三
四三	一	一	一	一	一	一	一	三
四四	一	一	一	一	一	一	一	三
四五	一	一	一	一	一	一	一	三
四六	一	一	一	一	一	一	一	三
四七	一	一	一	一	一	一	一	三
四八	一	一	一	一	一	一	一	三
四九	一	一	一	一	一	一	一	三
五〇	一	一	一	一	一	一	一	三
五一	一	一	一	一	一	一	一	三
五二	一	一	一	一	一	一	一	三
五三	一	一	一	一	一	一	一	三
五四	一	一	一	一	一	一	一	三
五五	一	一	一	一	一	一	一	三
五六	一	一	一	一	一	一	一	三
五七	一	一	一	一	一	一	一	三
五八	一	一	一	一	一	一	一	三
五九	一	一	一	一	一	一	一	三
六〇	一	一	一	一	一	一	一	三
六一	一	一	一	一	一	一	一	三
六二	一	一	一	一	一	一	一	三
六三	一	一	一	一	一	一	一	三
六四	一	一	一	一	一	一	一	三
六五	一	一	一	一	一	一	一	三
六六	一	一	一	一	一	一	一	三
六七	一	一	一	一	一	一	一	三
六八	一	一	一	一	一	一	一	三
六九	一	一	一	一	一	一	一	三
七〇	一	一	一	一	一	一	一	三
七一	一	一	一	一	一	一	一	三
七二	一	一	一	一	一	一	一	三
七三	一	一	一	一	一	一	一	三
七四	一	一	一	一	一	一	一	三
七五	一	一	一	一	一	一	一	三
七六	一	一	一	一	一	一	一	三
七七	一	一	一	一	一	一	一	三
七八	一	一	一	一	一	一	一	三
七九	一	一	一	一	一	一	一	三
八〇	一	一	一	一	一	一	一	三
八一	一	一	一	一	一	一	一	三
八二	一	一	一	一	一	一	一	三
八三	一	一	一	一	一	一	一	三
八四	一	一	一	一	一	一	一	三
八五	一	一	一	一	一	一	一	三
八六	一	一	一	一	一	一	一	三
八七	一	一	一	一	一	一	一	三
八八	一	一	一	一	一	一	一	三
八九	一	一	一	一	一	一	一	三
九〇	一	一	一	一	一	一	一	三
九一	一	一	一	一	一	一	一	三
九二	一	一	一	一	一	一	一	三
九三	一	一	一	一	一	一	一	三
九四	一	一	一	一	一	一	一	三
九五	一	一	一	一	一	一	一	三
九六	一	一	一	一	一	一	一	三
九七	一	一	一	一	一	一	一	三
九八	一	一	一	一	一	一	一	三
九九	一	一	一	一	一	一	一	三
一〇〇	一	一	一	一	一	一	一	三

独立混成第三十五旅団通信隊部隊略歴

年月日	概 要
昭和五一年八月	<p>「スマトラ」島「タパヌリ」州「シボルガ」に於て編成完結 大臣既属に依り編成人員到着と共に、主として「シボルガ」と「シメ ウエル」島「ニパス」島及び「プロテロ」島間の通信連絡に任ず 西海岸州「パガン」に移駐、兵団警備地区内り通信連絡に任ず 大東亞戦終了後同年九月「リロ」に移駐依然前任務続行す 「ファキナン」に移駐依然前任務続行す 内地帰還の目的を以て「リオ」州「パカルバル」に移動す 同明、通信連絡任務を解除さる 「パカルバル」出港 「マレー」半島「ジョホル」州「バトバハ」に上陸 「マレー」半島「ジョホル」州「シンガポール」出港 名古屋海上陸 復員完結</p>

- 122 -

年月日	概 要
昭 六 三 五	軍令陸甲ヲ百十四号ニ依リ「パニカラシランタン」レ防衛司令部編時
五 一 五	編成完結（定員ニハミ名）充足人員ニハミ名
五 一 六	北呂出発
五 一 六	大阪環状線老出帆
五 一 七	昭南老上陸
五 一 七	昭南老出帆
五 一 七	「スマトラ」島「ブラワン」上陸

バンケランフランタン防衛司令部

部隊路歴

「パニカラシランタン」レ防衛司令官

陸軍大佐 山 本 道 義

代理「パニカラシランタン」レ防衛副司令官

陸軍大尉 黒 田 乙 名

-122-

0145

年月日	概	要
昭 五 二 一五	<p>「パンカララン」ガランレ着 不後同他に於て反政騒動を研作戦に参 加（北「スマトラ」島東地防犯）</p>	
至 三 三 三	<p>終 戦</p> <p>「パンカララン」ガランレ 附近に於て、連合軍命に依り、現地治安警 備に従事</p>	
三 三 三	<p>商島移駐の爲「スマトラ」島「バダワン」港出帆（ニス五名）</p>	
南方	<p>方「オ」陸軍病院入院者残留</p>	
陸軍	<p>々 医 少 佐</p>	
陸軍	<p>中 尉</p>	
陸軍	<p>紅 生 軍 曹</p>	
陸軍	<p>伍 長</p>	
陸軍	<p>兵 長</p>	
同		
陸軍	<p>上 考 史</p>	
五十	<p>風 三 郎</p>	
堀	<p>井 長 吉</p>	
増	<p>子 政 男</p>	
海	<p>野 重 次</p>	
高	<p>橋 正 司</p>	
西	<p>福 五 二</p>	
佐	<p>藤 更 前</p>	

年月日	
概 要	<p>昭 三 四 四 自 三 四 四 至 五 五 五</p> <p>陸軍上野矢 林 茂 「マライ」 「パトパハ」 上陸 「パトパハ」に於て衛戍 連合軍作業隊編成 「パトパハ」 地に出発司令官以下四九名残留 悪田大尉以下二六名（作業隊） 「マライ」 「ベシタ」 着 自後連合軍作業隊 主なる従事業務 鉄道橋梁道路作業荷役作業 及連合軍雑役 「マライ」 「ポートテックソン」 移駐 主なる従事業務</p>

根岡砲台百ニ大隊部隊略歴

根岡砲台百ニ大隊オ一中隊長

陸軍大尉 新井金助

年月日	概要
昭和 八 三 三	<p>野戦重砲台一八聯隊に於て野戦根岡砲台一〇ニ大隊オ一中隊編成完結 (編成人員附表一カ如し) 一スミトラレ島にパンカラングランガニレ防任司令官の指揮下に入る 一マミトラレ島の派遣にパンカラニハラニガニレ製油所 直接掩護に 従事す</p> <p>昭南戦進カ為つて武号ニ練習に依り乙徑路行動予定者 内藤中尉以下、 七七名を同地に残置し 甲徑路行動者中隊長以下五七名にパンカラ ングランガニレ出發 一編成人員附表一ニカ如し</p>
昭和 八 三 五	
昭和 八 三 六	

0148

年月日	概要
昭和八年五月	<p>「スマトラ」高「パカンバル」港出港 終戦（転道行動途中）</p> <p>昭南島上陸 昭南兵站宿舎 南天宮に駐屯</p> <p>昭南防衛司令官の指揮下に入り、同日野戦高射砲オ四八大隊長の指揮 下に入る</p> <p>兵站宿舎中兵営に移設</p> <p>「パンカニングラ」防衛司令部陸軍主計少尉 井田樟男及 陸 軍曹長 山岸 勇 昭南へ出張中の処、終戦に依り待命砲オ一〇ニ大 隊オ一中隊に転入</p> <p>（人員表附表オヨリ如し）</p> <p>昭南「ジロン」地区に集結</p> <p>横山伍長以下三名「シンカホール」ヨケツベルに依り集結要員として、 絞地に残留</p> <p>（人員表、附表オヨリ如し）</p>
昭和八年五月	<p>九一</p>

0149

年月日	略	概要
昭和九	〇	<p>「ジヨホール州」コタチンヤレに移駐</p> <p>「ジヨホール州」ジマランレに移駐。同地に於て作業反受撃準備</p> <p>陸軍一善矢村岡一郎、野戦機因碩オー。一大隊より載入</p> <p>(人員表 附表オ五カ如シ)</p>
昭和九	〇	<p>「ジヨホール州」センブロンレに移駐</p> <p>清都兵曹以下「ジヨホール州」ノルシンレ作業隊要員として出発</p> <p>(人員表 附表オ六カ如シ)</p>
昭和九	二	<p>「レンパン」島へ移駐の為、聯合軍側り携行品検査受駁</p>
昭和九	三	<p>「レンパン」島へ移駐の為、聯合軍側りの検閲受駁</p>
昭和九	四	<p>「レンパン」島へ移駐の為、シンガポールレ「ケツベル」港に到着</p>
昭和九	五	<p>「レンパン」島へ移駐の為、シンガポールレ「ケツベル」港に到着</p>
昭和九	六	<p>「リオ」諸島「レンパン」島 宝港に到着す</p>
昭和九	七	<p>「レンパン」島千島港貨物廠建築作業開始</p>
昭和九	八	<p>「レンパン」島千島港貨物廠建築作業終了</p>
昭和九	九	<p>「レンパン」島千島港貨物廠建築作業終了</p>

年月日	概要
昭和三五	<p>「レンバン」島・南千武地区に移駐 (編成人員表オセリ如し)</p> <p>「リオ」諸島「レンバン」島千尋港出帆 (オハ梯団として復員船「V〇三〇号」に上船)</p> <p>名古屋港上陸 復員完結</p> <p>歴代部隊長名 陸軍中尉 松原 有 大尉 新井 金助</p>

高射砲ヲ百四連隊部隊略歴

年月日	概要
昭 六 三 五	<p>「スマトラ」島「パンカラ」ン「ブラン」カン「レ」に於て、整備しおくりし防空 隊百三連隊カ一部及新に内地より派遣せら小なる高射砲ミケ中隊を以 て野戦高射砲ヲ六七大隊（本部一、砲隊ミケ中隊）を編成し、オニ五 軍カ隷下に入り不後「パンカラ」ン「ブラン」カン「レ」に駐屯し同地カ製油所 施設カ防犯並整備に任ず</p> <p>註 新に内地より派遣せら小なる部隊は 昭和一八月十月ニ十七日 「門司」港出港、同年十一月二日より十二月四日の間「スマトラ」 島「テロ」ン「カン」レに上陸す</p> <p>内地より輸送途中昭南に於て入院し殆癒退陸當部隊ハ追及中のオニ中 隊兵一名は「マラッカ」海「アロア」レ群島附近に於て、敵機の攻撃を 受テ奮戦の後死す</p> <p>オニ十五軍の隷下を脱し「パンカラ」ン「ブラン」カン「レ」所任司令官の隷下 に入りオニ九飛行団に隷屬す</p>

年月日	概要
五三三	<p>公務員海メダントレ貨物麻に込乗途中突一名メダントレ地方四軒の地 表に於て自動貨車より転落死す</p>
三	<p>子メマラリヤレにて雨方オ十位軍病院に入院加藤中リオニ中隊突一 名死亡す</p>
五三	<p>軍令陸甲オ百十四号に依り砲三中隊 照空三中隊の増加要員 門司港 出發す</p>
五三	<p>輸送途中突一名航行中の船内に於て、脚氣衝心により死す</p>
自 五 三	<p>右要員はママトラ島「テロンボン」に上陸し遂次「バラン克蘭ブラ ン」に到着す</p>
五 三 五	<p>新に増加要員到着し以て、野嶽商射砲オ六十七大隊の假編成を 完結す</p>
五 三 五	<p>(本部) 砲六中隊 照空三中隊)</p>
五 三 五	<p>「スマトラ」島東海岸州「ベシタン」に於て、オ七中隊少尉一変死す</p>
五 三 五	<p>オニ中隊突一名行方不明となり「パン克蘭」市外「タン ガラン」に於て、洞に墜身自殺す(死亡確証)</p>

年月日	概
	<p>昭五八五 軍令陸甲才百十四号に依り高射砲才百四連隊を編成下令</p> <p>昭五八六 右編成完備し高射砲才百四連隊(連本一、才一乃至才八)中隊砲隊、才七乃至才九中隊照空へと改称す</p> <p>昭五八七 才一中隊一名、南方才十陸軍病院に於て胸膜炎に因り戦病死</p> <p>昭五八八 本即突一名、南方才十陸軍病院に於て赤痢に因り死亡</p> <p>昭五八九 才八中隊突一及才八中隊突一、南方才十陸軍病院に於て赤痢に因り死亡</p> <p>昭五九〇 才七中隊突二は、吉野少尉被害犯人として刑集団陸軍軍法会議に於て死刑の宣告を受け外に下士官一は、延期、突一は懲役十五年、突二は懲役七年に処せらる</p> <p>昭五九一 「パンカラシラン」に空襲を受け、戦斗中、才四中隊伍長一戦死</p> <p>昭五九二 才一中隊突一入院、後送不後不明</p> <p>昭五九三 才一中隊突一名「パンカラシ」に於て監視勤人中監視台上より転落死す</p> <p>昭五九四 才文中隊突一名「パンカラシ」に於て市外「ルバツリゲルタン」</p>

年月日	昭 一 二 三 四 五 六 七 八 九	概 要
	一	に於て空襲を受け戦死す オ九中隊兵一名、パンカラランガンレ市外、アルノルドアレに於て蚊蛇傷に因り死す
	二	オ七中隊伍長一名、南方オ十陸軍病院に於て、胸膜炎に因り、戦病死 オ四中隊兵一名、南方オ十陸軍病院に於て、赤痢に因り死す
	三	オ五中隊伍長一名、南方オ十陸軍病院に於て、マラリヤに因り死す オ六中隊、関川大尉以下一七名、マライに派遣の爲、パンカラランガンレ出発す
	四	オ八中隊伍長一名、南方オ十陸軍病院に於て肺結核に因り死す 武官演習参加の爲、オ三中隊、オ七中隊、オ九中隊はパンカラランガンレ出発す
	五	大東亜戦争終戦に因り、大詔を拜す
	六	オ九飛行師団の隷下を脱し、オ十五軍に隷下し、直江オ二師団長の指揮下に入る、オ四中隊、兵一名南方オ十陸軍病院に於て、肺結核に因り死す

甲 月 日	概 要
五 八 五	終戦に依り部隊集結の途、パンカランブランガンに出发、キサラン地区に向ひ、三〇日到着す、武器練習中止となり、先に出發せるオ三オ七、オ九中隊は逐次同地に集結す。
九 七	本部匯聚、陸軍マ屑一名、南方オ十陸軍病院に於て、腸結核に因り死す。
五 一	オ五中隊員一名、パンカランブランガン市外、セキムレに於て自殺す。
五 五	オ三中隊員一名、キサランに於て投身自殺す。
五 五	本部員一名、南方オ十陸軍病院に於て、赤痢に因り死す。
五 五	オ八中隊隊長一名、キサラン地区に於て自殺す。
二 五	オ一中隊軍曹一名、パンカランヌヌに於て、暴徒の襲撃を受け、戦死す。
三 三	オ三中隊軍曹一名、キサラン地区に於て自殺す。
一 四	本部員三名、キサラン地区に於て自殺す。
三 三	オ九中隊隊長一名、南方オ十陸軍病院に於て肺結核に因り死す。

又マトラ

年月日	概要
昭三一九	<p>本部隊一先、南方オ十陸軍病院に於て、肺結核に因り死亡 オ九中隊又一先、南方オ十陸軍病院に於て肺結核に因り死亡 前、又の逃亡せる者五名（オ三中隊三、オ四中隊二）ありとも其の後 消息不明なり</p>
三三一九	<p>秘駐の爲「オナラシ」地区を出發（本部一三八、オニ百多十九、オ三 百二十、オ四百多二、オ八百多四、オ九百多〇）「ベラワン」に向う 註 オ一、オ五、オ七、中隊は「パンカラ」ランガンに派遣し 同附近の警備に任せしめあり</p>
三三二五	<p>「ベラワン」乗船（本部、オニ、オ四、オ八、中隊は輝輝丸、オ三、 オ六中隊は秋津丸）「マライ」半島「バトバハ」に向う 尚、「ベラワン」に於て、校向り隊、オニ中隊軍曹一、オ三中隊又一 オ八中隊軍曹一、任長一、オ九中隊又一、残置せしめられ、其後不明 なり 「バトバハ」着、同地に上陸、飛行地区又宿泊舎に入す</p>

年月日	概
昭 二 四 三	<p>ニ梯団ヲ編成を令せらる。一梯団は、オ五十五とし花園少佐梯団長となり、本部の一師団オニ、三、九、中隊を以て編成し、梯団長以下三七五名露苦地出發、コクルワニレに向う。他の一梯団は、オ五十七とし、高木大尉梯団長となり、本部ヲ大部、オ四、オ八中隊を以て、編成し、梯団長以下三七五名、四月四日露苦地出發、コクルワニレに向う。</p> <p>此の際、露苦地に、病弱者（入院予定者を念む）三十八名を殘置す。コクルワニレに於て、榛向を受け、同日同地出發、コシツカホールに到着、ツヤツパール、作業隊に入ら。</p> <p>オ一中隊兵一名、コキサランレ地区に於て中毒により死亡す。</p> <p>本部大尉一名、コキサランレ地区に於て暴徒の襲撃を受け戦死す。</p> <p>オ五中隊准尉一兵一名、コパンカラランブランドン、市外、コセチユレに於て暴徒の襲撃を受け戦死す。</p>
昭 二 四 三	<p>一五</p>

概 要

0158

年月日	概
昭 八 三 五	軍令陸甲才百十四号に依り、パンカラングランに警備隊を臨時編成下令 (彌次担任部隊鐵道才二連隊補充隊)
五	彌次宛婚
一	北野出発
六	大阪浪速港出航
五	昭南若上陸
二	昭南若出帆
三	スマトラ島ベラロン港上陸

パンカラングランブランダン警備隊

陪隊略歴

パンカラングランブランダン警備隊長
陸軍大尉 吉田 亀 一

年月日	概
昭 二 五	パンカラングランカン着 不後反攻艦隊再作戦（北ママトラ要地防 任）に参相
二	陸軍突長 石渡益史以下三名、ヤーマ野集航空修理廠、オ一倉廠に転 出
八 五	陸軍上着突、手塚箱也、メダン市南方オ十陸軍病院に於て、マラリマ 三日熱にて戦病死
一 四	陸軍伍長紺野平吉戦死（自一月二日、パンカラングランカン防衛隊面 接戦陣のたりの配置せら小沢る、コブランダン、東北方約三十三村の海上 コオ百六海上監視哨、哨長として勤務中、一月四日、敵機未襲撃隊 機銃掃射に依り、左上胸切貫通銃創兼左側胸印首貫銃創（心臓損傷） に由り十一時十七分戦死す）
三 五	陸軍少曹布手消達、メダン市南方オ十陸軍病院に於て、コアノバ桂赤 痢にて戦病死
四 三	免、パンカラングランカン警備隊長被補パンカラングランカン防任司 令部附 陸軍中尉 小林 勝

年月日	概要
昭和 三 年 九 月 五 日	<p>免・パンカラングランガン防社司令部附 被補・パンカラングランガン警備隊長陸軍大尉 吉田 竜一</p> <p>陸軍少尉 井川 克巳・パンカラングランガン警備隊附として輸入</p> <p>陸軍少尉 飯淵 孝次・パンカラングランガン防社司令部附として輸出</p> <p>終戦</p> <p>オニ十五軍の隷下に入る</p> <p>近江オニ師団の指揮下に入る</p> <p>パンカラングランガン附近に於て、連合軍治安警備に従事す</p> <p>新島親駐の舟・スマトラ島ベラワン港出帆・スマトラに残留者大石マライ、バトパハレ港上陸</p> <p>バトパハ地区に於て街戦</p> <p>作業隊備成バトパハ地区出発・残留者二十名</p> <p>マライ、コベンタレ着・不後連合軍作業に従事す</p> <p>内地運送力為・シンガポール陸軍病院転送へ陸軍大尉長今井正繁</p>

年月日	
概	<p>内地還送の爲、所方才三陸軍病院転送（陸軍衛生次長・早戸己之助） 復員内還り及び、陸軍大尉 吉田亀一以下三名シニガホール若出帆 内地還送、并澤孝三部外五名 陸軍次長 山本善次郎才三陸軍病院クルワン疎放隊転属 陸軍中尉 大市常二郎以下七名内還 陸軍中尉 小島貞雄以下二名内還 残留人員 陸軍中尉井川克己以下三名 （マライ）「ネグーセ」ンピラン州「セレンバン」レ「バロイ」レ連合単体 業従事</p>

南スマトラ燃料工廠訂隊略歴

南方燃料本部
南スマトラ燃料工廠長
陸軍少将 浅野 刚

年月日	概
昭和五三	福清編成下令
五三	オニイ野戦兵器廠採油隊（新設）
五三	軍令陸甲オニイ五号に依り、南方燃料廠編成下令
五三	南方燃料廠南スマトラ支隊（編成完結）
五三	軍令陸甲オニイ号に依り南方燃料廠編成改正
五三	南スマトラ燃料工廠と改称
五三	「バレンバン」に於てオニイ次防在燃料に参加、死傷なし
五三	「パレニバル」に於て、オニイ次防在戦斗に参加
五三	戦斗二名戦死、生死不明なし

0163

36

内

ス
ア
ト
ラ

E

年月日	経過
概 要	<p>一、レンバンに於てオミカ所紅戦斗に参加。前校一准下士官一。突 一、枚手ニ。雇員一戦死。准士官一。枚手一戦傷死。生死不明なし 終戦後、ママトラに居り、バレンバン州、パカラ、ムレ附近並に、パ ンドツボレ附近及、ランホン州、カリアンガレ附近に於て、現地人 の襲撃に依り、前校ニ。准士官一。下士官一。突一。雇員一。枚手ニ。 雇員四。戦死。雇員一。戦傷死。生死不明なし</p> <p>歴代部隊長名</p> <p>陸軍中佐 永幡節 誕</p> <p>少将 中村隆 壽</p> <p>少将 浅野 剛</p>

0164

北スマトノ燃料工旅部隊略歴

年月日	概	要
昭 五 三 三	西貢オニ野戦兵器廠(採油班)に於て、オニ十五野採油隊長令謀下直北スマトラレ石油資源獲得力爲、スマトラレ島、ペルラウレ上陸	
昭 五 三 三	ランタウレに進駐	
昭 五 三 三	パンカラングランガンに進駐	
昭 五 三 三	オニ十一野戦兵器廠備成改正下令	
昭 五 三 三	石油関係作業隊既編、復旧作業開始	
昭 五 三 三	南方燃料廠備成完結、南方燃料廠北スマトラレ支廠と改称	
昭 五 三 三	パンカラングランガンに製油所初期復旧完成、製油開始一日処理能力一五〇軒	
昭 五 三 三	徹底的破壊ヲ爲、復旧不能なりし、パンカラングランに製油所大半の製油機撤去、全面的復旧作業開始	
昭 五 三 三	支廠長着任	
昭 五 三 三	オニ蒸餾装置復旧完成製油開始、一日処理能力一〇〇〇軒	

年 月 日	欄	要
四 八 二	「ベラロン」製油所開設	一日製造量六〇坪
九 五	製油所開設 一日製造量六〇坪 「ベラロン」製油所開設 一日製造量六〇坪	一日製造量六〇坪
五	全石完成送油開始 一日送油量一〇〇〇坪	一日送油量一〇〇〇坪
五	「エデレア」装置完成 処理開始 一日処理能力五〇〇坪	一日処理能力五〇〇坪
五	軍令陸甲オニ十一号に依り南才燃料廠編成改正下令	南才燃料廠編成改正下令
三	支廠長更迭	支廠長更迭
四	支廠長着任	支廠長着任
四	編成完結、北「スマトラ」燃料工廠と改称	北「スマトラ」燃料工廠と改称
三	オニ無油装置復旧完成 製油開始 一日処理量一三〇〇坪	一日処理量一三〇〇坪
二	「パンカラン」製油所被爆	「パンカラン」製油所被爆
三	「パンカラン」製油所被爆	「パンカラン」製油所被爆
一	「ベラロン」製油所被爆	「ベラロン」製油所被爆
一	「ベラロン」製油所被爆	「ベラロン」製油所被爆
四	「ベラロン」製油所被爆	「ベラロン」製油所被爆
四	「ベラロン」製油所被爆	「ベラロン」製油所被爆
四	「ベラロン」製油所被爆	「ベラロン」製油所被爆
三	「ベラロン」製油所被爆	「ベラロン」製油所被爆
二	「ベラロン」製油所被爆	「ベラロン」製油所被爆
一	「ベラロン」製油所被爆	「ベラロン」製油所被爆
一	「ベラロン」製油所被爆	「ベラロン」製油所被爆
一	「ベラロン」製油所被爆	「ベラロン」製油所被爆
一	「ベラロン」製油所被爆	「ベラロン」製油所被爆

年 月 日	昭 三 五	至自 三 五	至自 三 五	至自 三 五
	二	五	五	四
	五	九	七	八
	二	五	三	四
概	工廠長着任	産油總量 一四三万六九七一升	原油処理總量 六六万六〇〇〇升	内地輸送の力 スマトラ 船 ヲベラワン 港出發 宇面港上陸 復員完結
要	歴代部隊長名	少將 永田直武	少將 木田公禱	大佐 池田幸二
	陸軍曹長 佐々間 沢太郎以下一三名	燃料工廠編成以来の損耗人員たり如し	昭和一九年四月十日南方燃料の滿放改正に依る 北スマトラ	其の他警備作戦艦直向の損耗人員

-145-

0167

第九十四兵站警備隊部隊略歴

第九十四兵站警備隊長
 陸軍少佐 佐伯 虎三雄

年月日	概
昭和四一 一六	<p>軍令陸甲オエ七号に依り編成下令 「スマトラ」島「パレンバン」に於て編成完了 不後「ムシ」河撒油水路の防備に従事す。終戦後は南部「スマ トラ」島「パレンバン」地区「ルブガナ」地区及「ジメムビ」 「地区」に於ける治安警備に従事す 現在迄戦病死者下士官一、兵四、計五名の他戦時に由る戦死 戦傷入院患者等なし 歴代部隊長なし</p>

南方軍臨時施設隊警備

才三中队部隊略歴

陸軍大尉 並木 助八

年月日	概要
昭和五五年三月	才七方面軍司令部付(南方軍臨時施設隊)転属 内司越出発 台湾大焼島沖戦に参加
昭和五五年三月	昭南越上陸 同日才七方面軍司令部付(南方軍臨時施設隊)に転属 スマトラ島メダンに於て南方軍臨時施設隊警備才三中队編成完結
昭和五五年三月	才九飛行師団監理部メダン出張所長に指揮下に入り施設作業に従事
昭和五五年三月	パラガンブランガン防工司令部指揮下に入り同地附近の油田施設防 衞に警備
昭和五五年三月	南方軍臨時施設隊解散に依り近衛第二師団に配属
昭和五五年三月	高射砲才一〇四連隊長に指揮下に入り、引続き前任職務執行

年月日	概 要
昭和 三十八 年 八月 十六	<p>終戦</p> <p>オ四十七又斯警備隊に取属。不後、シマンタルに附近の警備に従事 高島のため、ベラワンに港出港</p> <p>マライ、パトパハレに上陸島地にて着て待機</p> <p>オ四十六作業大隊に編入同日本部中隊編成</p> <p>マライ、パハン州パンタ飛行場に到着。不後同地附近の連合軍管理下 作業に従事</p> <p>マライ、ネグルスンビラン州、ポイントタクソンに移住し連合軍管理下 湖食糧増産に向前拓作業に従事</p>

スマトラ鉄道隊部隊略歴（メダン市）

陸軍中佐 若尾 忠三

年月日	概 要
昭 一 九 二 三	<p>「メダン」に於て、臨時編成せられ、旧「パナ」鉄道及、旧「アチ」エ「鉄道」を併せ管理運営して、北「スマトラ」防犯作戦の推進に任せしめらる。</p> <p>編成要員は、南方軍野戦鉄道司令部、北部「スマトラ」支隊要員、カニ十五軍司令部要員、軍政監部、北「スマトラ」鉄道局要員（大官）にして、其下に現地鉄道従業員約三千五百を従役す。</p> <p>時恰も北「スマトラ」防犯作戦の急展開に際し、尔来軍の作戦補給、各輸送並に鉄道防犯施策に全機能を發揮せり。</p> <p>終戦後は、全北「スマトラ」地域に既置せる大部隊の撤退集積輸送を担任し、又「メダン」・「バラン」間の連合軍の輸送は、帰還乗船迄を総し末ハリ。</p>

年月日	昭
概	<p>部隊長名 陸軍中佐(現引) 若尾 忠三</p> <p>編成人員 旧南方軍野戦鉄道司令即要員 三十二名 オシ十五軍 司令部 一名 旧スマトラ鉄道局 " 一〇五名 兵器 弾薬は自任用として小銃 手榴弾等若干</p> <p>販賣表 附表オ一の如し 外に現地鉄道従業員三十五百乃至五千 人員兵器等、増減関係 概略 特に記すべき物なし</p>

年月日	
概 要	<p>(1) 終戦後も依然現部隊を以て任務を続行中漸次沿線ノ民情悪化し来リ 所在ノ軍隊逐次撤退集結し始メテ之を以て部隊ノ現場部署しこれに伴 ひ逐次改廢し一三月上旬には人員ノ大部を「バヤビナン」製園に集 結し自給耕作に従事せしめ隊長以下限ノ人員を以て任務を続行す (2) 「コタラジヤ」に在リし者五名は同地軍隊に同行し昭和二〇年十二 月上旬「オレレ」港より南島に移駐す (3) 本年四月下旬大部ノ人員（文官九〇名）を内地に向け出帆せしむ (4) 残余は七月下旬任務を閉隊せり此同時内地に向け出帆す 其他部隊ノ経歴中特異と認めらるる事項 当部隊は軍人少数にして而も之并は鉄道の運管に關し細部不明なる を以て部隊は業務上鐵道文官を主体とせざるべからざる状況となり文 官を所謂軍属とす他部隊とは内容の著しく異なるものありさ又多人 数の現地従業員を擁護督励せざるべからざる關係上文武官共本東 の業務の他現地人の生活確保の爲要常の努力を傾注せり</p>